



山谷副知事の祝辞

北海道医師会第149回定時・第150回臨時



会長再選の挨拶

◆第149回定時代議員会にて、平成28年度決算を承認、次期役員・裁定委員を選出
 ◆第150回臨時時代議員会にて、当面の医療政策について報告と質疑

◇総務部◇

第149回定時代議員会を去る6月17日（土）、翌日の6月18日（日）に第150回臨時時代議員会を、当医師会館8階会議室においてそれぞれ開催した。

冒頭、仮議長の吉田肇代議員の進行により、議事録署名人（札幌市・向井正也代議員、小樽市・柿木滋夫代議員）の指名の後、議長に本間哲代議員を、新議長の進行により副議長に稲川昭代議員を選出した。

挨拶（長瀬会長）

「第149回定時代議員会開催に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

代議員の皆様には毎日の診療でお疲れの中、ご参集頂きありがとうございます。常日頃、北海道医師会の事業運営に対しご支援、ご協力を頂いておりますことに心から感謝を申し上げます。

本日の代議員会では、平成28年度の北海道医師会の事業報告の後、会計決算についてご審議頂くこととなっております。

その後、次期北海道医師会役員、会長、副会長、理事、常任理事、監事、および裁定委員の選挙を行う段取りとしております。

平成29年度の北海道医師会の活動方針と予算案につきましては、すでに終わりました3月の代議員会にお諮りし承認を得、ただ今それに則って活動を行っております。

本日の代議員会をもって、2年間にわたる私達執

行部の役割を終えます。北海道医師会代議員、郡市医師会役員および会員の皆様のご支援、ご協力により無事役割を終えられますことに、安堵するとともに、心からお礼を申し上げます。本日この後選出されます役員にもこれまで通りのご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成28年度は大変な一年でした。近年の異常な気象状況により、かつて経験したことのない連続3回の大型台風が北海道に上陸し、大雨による鉄道路線、道路の決壊と農地、農作物に甚大な被害を被りました。その影響は未だに残っております。

昨年未誕生した米国におけるトランプ新大統領の、思いもよらない言辞、行動の連続は、日本は勿論、世界中を驚きの渦に巻き込んでいます。一方、その後には欧州諸国で大統領および首相選挙を迎え、米国と同様ポピュリズム政党の台頭顕著でその成り行きが危ぶまれていました。しかし、フランス、イギリスでの選挙結果はいくらか冷静を取り戻した感があります。日本を取り巻く韓国、北朝鮮、中国等近隣諸国の情勢は相変わらず厳しい状況にあります。

一方、わが国はデフレからの脱却が遅々として進まず、憲法改正、自衛隊の海外派遣、テロ防止法案採択、諸省庁の不手際等があり、政局の先行きが心配されます。昨年の8月、天皇陛下のご退位のご意思表示から一年、問題は残っていますが方向性が見え、多くの国民が安堵しています。これをきっかけに良い方向に向かってくれることを願わずにいられません。

この2、3年多くの議論が交わされた地域医療構想も昨年の暮れに構想策定を終え、知事に答申いたしました。それを基に平成30年度から始まる第7次地域医療計画および第7期介護保険制度事業支援計画の策定作業に入っています。会議等における十分な時間の余裕がない中で、またホットな意見交換が想定されます。超高齢社会に突入し、住み慣れた地域で、病気治療、回復期療養、在宅での介護と包括ケアシステムに守られ、一生を終える場合がこれから多くなります。

6月9日、「骨太の方針2017」および「未来投資戦略2017」が閣議決定されました。問題は地域医療構想を入院医療費の削減手段とするとしていることであり、遠隔地の専門医がICT活用により検査指示、治療するという、医療体制の在り方を変えるようなことは、十分検証し納得の上で進めるべきものであります。

平成30年は診療報酬と介護報酬の同時改定が行われます。これから暮れにかけて、まず報酬の改定率をいかにするかが議論されます。最終的には首相の裁定となりますが、正確な現状分析、把握が必要です。また、医療や介護に今何が強く求められているかの判断が重要です。骨太の方針が大きく行方を左右します。日常診療で矛盾を感じずる点を強く主張しなければなりません。

医師不足と偏在の解決が十分図られないまま、新専門医制度の開始がすぐ先に迫っています。地方の医師不足、偏在を来さないよう北海道医師会としては、専門医制度発足が決まった時点で早速、行政、3医育大学、研修病院関係者と共に専門医制度対策協議会を発足させました。地方が置き去りにされないようにするためです。

一般診療医として、医学、医療の進歩に遅れないよう、地域の患者さんに適切な医療の提供が出来るよう、かかりつけ医として対応すべく研修制度が日医の主導で開始され、多くの医師の自発的参画を得ています。積極的に活用をお願いします。

医師不足対策としては、医師派遣事業、女性医師の働く場の整備、青少年育成事業、新医師研修制度および新専門医制度に対する対策協議会の設置等積極的に行っています。

また、広域な北海道において、どこに住む人にも優れた日本の医療を受けられるようにと、医療用ジェット機の導入への働きかけを行い実現にこぎ着けました。実効あるものに育てあげたいと思っています。世界に冠たる日本の皆保険制度を守るため、医師全員が腕を組み声を出し、他職種協働で理想を求めていきたいと考えています。

医師会員皆様のご支援ご協力をお願い致します。

◇

平成28年度事業報告の後、議案第3号：平成28年度決算に関する件に入り、公益目的支出計画実施報

告および監査報告を得た後、決算委員会に審議を付託した。決算委員会終了まで暫時休憩の後、岡田決算委員長の報告を受け、平成28年度の決算が承認された。

その後、議案第4号から議案第9号に関する役員等の選挙の件を承認し、第149回定時代議員会を終了した。（選挙結果は、前号掲載の「北海道医師会告示第116号」のとおり）

翌日に開催された第150回臨時代議員会は、まず再任された長瀬会長から、前日の理事会にて会長・副会長・常任理事等の候補者がそれぞれ選定されたとの結果報告と、新任役員紹介の挨拶があった。

その後、当面の医療政策に関する報告では「総論」（笹本常任理事）「第7次北海道医療計画-今後のスケジュール-」（小熊副会長）「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会報告書」（笹本常任理事）「医療事故調査制度-北海道における現状と課題-」（水谷常任理事）「改正道路交通法における認知症高齢者対策」（藤原副会長）についてそれぞれ詳細に説明がなされた。

続いて、代表質問ならびに一般質問を受け、理事者からそれぞれ答弁が行われた。

◇代表質問◇

1. 鈴木 敏夫 代議員（後志ブロック）
「遠隔診療について」
（答弁者：橋本常任理事）
2. 橋本 和季 代議員（道北ブロック）
「改正道路交通法における認知症に係る診断書提出命令制度について」
（答弁者：藤原副会長）
3. 荒木 啓伸 代議員（中央ブロック）
「介護保険法等の一部改正について」
（答弁者：藤原副会長）
4. 仲屋 裕樹 代議員（道南ブロック）
「持続可能な国民皆保険のために今何をすべきか」
（答弁者：笹本常任理事）

◇一般質問◇

1. 枝村 正人 代議員（札幌市）
「定期予防接種の広域化を要望」
（答弁者：三戸常任理事）
2. 立花 啓 代議員（札幌市）
「混合介護について」
（答弁者：藤原副会長）

最後に、長瀬会長より閉会の挨拶が行われ全日程を終了した。

◇

〈質疑応答を含めた議決事項については、順次当会ホームページに掲載予定〉